

■ 子供に「勉強しろ！」と言う前に、 子供が勉強したくなる環境を作るべし

修正： 2022.08.01

投稿： 2022.08.01



●子共に「勉強しろ！」と言う前に、

子供が勉強したくなる環境を作るべし①

親が子共に「勉強しろ！」と言うのも、
子供の将来を案じてのことです。
親としては、子供の学力向上のためであれば、
何かと手助けしたくなるものです。

塾や家庭教師など、充実した教育を受けさせたり、
視野を広げるため、幅広く書籍を紹介したりと、
教育熱心であればあるほど、試行錯誤されていることでしょう。

しかしながら、親が子供のために思えば思うほど、
アプローチは親から子供への「一方通行」となりがちです。
いくら勉強が大切だとは言っても、
一方的に押し付けられては、嫌悪感を抱くことでしょう。

その上、「あなたのために思って言っているのよ！」
という恩着せがましい態度を取られては、
やがて親子関係も冷めてしまうことでしょう。そうして
いつの間にか子供は他人となり、最悪、敵となります。

そんなのでいいのでしょうか？
勉強することを強く勧めた結果、
親子関係が崩れてしまいました、
と言うのでは話になりません…。

とは言っても、勉強を促すことは大切です。
学力が将来の可能性を広げたり狭めたりしていることは事実です。
だからこそ、親は子供に勉強を促さなければなりません。が、

「勉強しろ！」とただ言うだけでは
伝わりません。では何が必要なのでしょう？

それは親と子供の**信頼関係**です。

あなたは子供と信頼関係を築けていますでしょうか？

本当に？

(続)

//=====//

●子共に「勉強しろ！」と言う前に、

子供が勉強したくなる環境を作るべし②

親として、子供の**将来**を案ずるのは当然のことであり、
将来は学力によって大きく左右されることを踏まえると、
親として子供に「**勉強しろ！**」と言わずにはられません。が、

「勉強しろ！」と言ったところで勉強するものでもありません。
やる気(モチベーション)という**内側の要素**がなければ、
勉強するという**行動**に結びつかないからです。
(行動は気持ちから、「内から外へ」の原則です)

つまり、**いきなり行動を求めても仕方がない**のです。
気持ちを無視して子供に行動を強要すれば、
生じた苦痛はすべて親への**復讐心**に変わります。
(心の作用・反作用といったところでしょうか)

よって、まずは、

「子供が勉強したくなるような環境を作る」

ところから始めなければなりません。

当然、それを実行するのは親なわけですから、
子供に勉強させるにあたって、**先に苦しむのは親**です。
親が考え方を変えていかなければならないから、です。

求めている側が率先して苦しむ、
人の世の道理というものでありましょう。

こうした「内から外へ」のプロセスとは反対に、
効率良く相手を変えようとする手法(心理テクニック)なるものは、
相手の気持ちを無視するものが大半です。なぜなら、
その気持ちの部分こそが最も非効率だからです。

例えば、子供に手っ取り早く勉強させるテクニックとして、
「**成績に応じて小遣いを支給する**」という方法があります。が、
この場合、金を貰えなくなれば勉強もしなくなります。
(アンダーマイニング効果)

結局、**やる気(モチベーション)**がなければ勉強はしませんし、
継続もできません。勉強には**自発性**が必要ですから、
「内から外へ」「気持ちから行動へ」でなければならないのです。

(続)

//=====//

●子共に「勉強しろ！」と言う前に、

子供が勉強したくなる環境を作るべし③

親として、子供に「勉強しろ！」と言うのであれば、
親も親で、子供が勉強したくなるような環境

を作っていかなければなりません。

ここまで、「勉強させること」で話を進めておりますが、
勉強以外のことも同様です。例えば、

「部屋を片付けなさい！」とか、
「家事を手伝いなさい！」とか、
「お使いに行ってください！」などなど、

子供に行動を求めることはすべてです。もし、
気持ちの部分を見捨て、手っ取り早く
行動だけを求めるようなアプローチをしていれば、
子供から否定的な態度を取られてしまうことでしょう。

それでもって、
「素直に言うことを聞いてほしいのに、
何を言っても拒否してくる…、反抗期かな…」
と思い悩むものですが、いやいや、そうではありません。単に親が、
反発されるようなアプローチをしてしまっているだけです。

「親の心子知らず」とはよく言いますが、逆に、
「子の心親知らず」も成り立っているのです。

親として、子供を一人前に育て上げた後、
その子供から「感謝される」のか「感謝されない」のか、
この分かれ道は、これまで子供の気持ちを汲み取ってきたか、
それとも無視してきたかという点にあります。

子供に家事を手伝わすこと一つとっても、
「内から外へ」「気持ちから行動へ」です。
(「内から外へ」の原則です)

(続)

//=====//

●子共に「勉強しろ！」と言う前に、

子供が勉強したくなる環境を作るべし④

子供に勉強してほしいなら、まずは親が、

「子供が勉強したくなるような環境を作るべし」

という話でした。では具体的に、

勉強したくなる環境とはどういったものでしょうか？

どうすれば勉強に興味が湧くのでしょうか？

そもそも「勉強」とは何でしょうか？

ここでは、苦しい思いをしてでも努力をして、

何かを学ぶことを「勉強」と捉えます。

当然、苦しみよりも大きなリターンとして、

学ぶ喜びがなければ、勉強したいとは思えません。

では人は、どういうときに学びたいと感じ、

学ぶことに喜びを見出せるのでしょうか。つまり、

「知りたい！知りたい！もっと知りたい！」と、

知識欲が刺激されるのはどんなときでしょうか？

身近なところから考えるといいかもしれません。例えば、

「自動車ってどうやって動いてるの？」とか、

「あのドラマの続きが気になる…」とか、

「あの人は誰と付き合っているんだろう？」などなど、

知りたいことはそこら中に転がっています。では、

なぜそれを知りたいと感じるのでしょうか？

そして、その「なぜ」をどのように活用すれば、

子供が勉強したくなる環境を作れるのでしょうか？

子供にも性格がありますから、
こうすればいいという一元的な方法は存在しませんが、
考えればそれなりにやり方も見えてきます。

参考までに、過去記事

「子供と一緒に子供の未来を考える、そして作る」(2021 年 2 月)

にて、子供の知的好奇心を掻き立てる
子育ての例について載せております。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)